

見えない恐怖

今回の東日本大震災で被災した福島第一原発が、極めて危険な状況にあるようです。

こうして原稿を書いている今も、事態は悪化しているのではないかと危惧しています。

既に、被曝している方もおられるので、仮に原子炉が大きな破壊に見舞われた場合には、その影響は計り知れません。放射線は、我々の目に見えないものであるだけに、ひたひたと押し寄せて来るような恐れを感じます。

原子力発電が危険なものであることは誰しもが承知していますが、原子力発電所を受け入れてきたそれぞれの地域では、電力会社や行政側からの説明を受けて、安全なものとして受け入れてきたということだと思います。

それだけに、今回の福島第一原発の展開は、想像を超えた地震ということがあったとしても、非常に大きな問題が浮かび上がってきたといわねばなりません。

1点目は、事故対策に対する指揮が適切だったかということです。特に、政府の関わり方は十分だったか問われるところでしょう。

また、国民に対する説明、情報提供が適切であったかも疑問です。東電の説明を聞いていて、危機感が伝わらない、奥歯にものが挟まっているような感じで、不安を感じられた方も多かったのではないのでしょうか。

2点目は、事故対策そのものが適切だったかということです。

東電では、福島原発の再稼働を考えて海水注入のタイミングが遅れた、ということはないのでしょうか。また、2号機の原子炉を冷却するため海水注入を行ったにもかかわらず、ポンプの燃料切れでその作業がストップしていたというヒューマンエラーともいえる事態も発生しています。現場での、対応が最善・適切であったのか疑問が残ります。

3点目は、福島原発が止まったことによって電力供給が間に合わず、計画停電が行われています。このことによる日常生活はもとより経済活動への影響は、極めて甚大です。我々は、如何に多くのエネルギーを費消しながら生活しているかが、改めて思い知らされます。

また、地方の負担のもとに都会の生活が維持されているという、この当たり前の構図も鮮明になったと思います。

今後、原発に対する議論が活発になるでしょう。ただ、計画停電での混乱の状況を見るにつけ、原発を全否定するだけでは問題は解決しないように思います。

4点目は、原発の危険性が改めて国民の前に晒されました。今後、全国にある原発の安全性とその確保について、徹底した検証が必要です。

後戻りが困難な程にエネルギーを多消費しながら豊かな生活を享受してきた我々は、原発としっかりと向き合う必要があります。

思いつくまま、書いてきましたが、とにかく、スリーマイル島やチェルノブイリの事故という悪夢を見たくありません。あらゆる手だてを講じて、罪悪の事態を回避していただきたい、と祈る気持ちでいます。 （塾頭 吉田 洋一）